

丸山文庫資料の整理・公開 ―二〇〇六年四月以降の展望―

宮村 治雄・松沢 弘陽

丸山文庫資料の整理・公開の作業については、『東京女子大学比較文化研究所附置 丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第2号に、

二〇〇六年度分を記し、なお二〇〇六年四月―二月の作業についても「追記」として同号に報告しました。その後「追記」に記した、ノート・草稿類のデータベース(DB)構築について、二〇〇六年末から二〇〇七年五月にかけて、京セラ・丸善システムインテグレーション株式会社(KMSI)と緊密な打合せを続け、七月にはDBシステムが完成しました。現在は完成したシステムについて点検と部分的な手直しを続けています。

このような経過なので、今号では、二〇〇六年二月から二〇〇七年九月までの作業の要点について報告し、そのうち二〇〇七年四月以降、二〇〇七年度分の作業の詳細については、なお次号で補うことにします。

I データベースの概要

東京女子大学ホームページ・サーバからは独立させ、インターネット

トによる丸山文庫への直接の検索を可能にする。

サービスの内容

キーワードの入力により、次の項目が画面に表示される。各資料の、1 ID番号、2 標題、3 標題カナ、4 執筆年、5 関連する資料のID番号、6 分類大項目、7 分類中項目、8 分類小項目

II 今後の課題

今年度の目標

入力すべき資料の総量はID番号一から二〇〇〇余まで、項目数約五〇〇〇。今年度はID一―七〇〇を入力し、図書館事務用端末による試験運用を始める。

この過程で、KMSIによってDBに入力された標題カナが正しいか、丸山文庫協力の会の手でチェックをする。

これまでに整理済みの資料について、入力するために、重ねてデー

タの正誤の点検、D B構築にあわせたフォームの整理（例えば標題の短縮）などを行う。

新たに発見された、未整理資料約百点を整理して入力する。

III 図書の開と手沢本の電子情報化

平石直昭氏による、丸山先生旧蔵書の書込み類の調査は、二〇〇六年度に完了した。同氏によって補足された書込み類の電子情報化は二〇〇七年に終了予定。電子情報化した結果について、平石氏が原本と照合して点検された上、手沢本を公開するための具体的な準備を進める。